

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300404		
法人名	株式会社ケアブレーンズ		
事業所名	なじみ山根(グループホーム)		
所在地	〒963-0111 福島県郡山市山根町12-25		
自己評価作成日	平成30年9月24日	評価結果市町村受理日	平成31年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の意思・主体性を尊重し、お一人おひとりがその人らしい生活ができるよう、家庭的な環境の中で、安心・安全に生活できるよう支援している。チームケアを重視し、職員一人ひとりがやりがい・向上心を持って働けるよう、担当制の導入、OJT、OFF-JTの強化に力を入れ、人材育成に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は小規模多機能型事業所を併設し、両施設の中央に「地域交流エリア」を設置しており、地域交流の拠点として活用してきている。開設後6年経過した現在、地域に根差した事業所となっており、事業所自体が地域の一員として地域活動や人々との関わりを大切に日常的に交流している。
2. 法人では研修体制が構築され、全職員が適切に研修の機会を与えられている。資格取得に対しての支援も確立されており、全職員が資格取得や更なるレベルアップに意欲的に取り組んでいる。
3. 職員同士のコミュニケーションが円滑に図られており、さらに全職員と利用者との信頼関係がうかがえ、職員の笑顔といきいきした行動に利用者の表情も明るく、笑いの絶えない和やかな雰囲気のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、職員全員が目につく場所に掲示し、会議等で繰り返し内容を確認することで共有化を図り、利用者本位の生活ができるよう、支援に努めている。	理念を事業所内のフロアに掲示し、「社員ミーティング」会議等で全職員が共有し、利用者が”安心して安全に生活できる”ような日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、敬老会・文化祭・清掃活動等に積極的に参加。また、職員と一緒に近隣に回覧板を届けに行ったり、事業所や地域の行事に参加することで、地域の方々と交流を図っている。	事業所では地域の行事に積極的に参加し交流している。事業所の夏祭りには多くの地域の方々の参加があり、一大イベントとなっている。地域の子供祭りの神輿の来訪もある。また、事業所の馴染みカフェを開放し、地域の人々の交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、家族の集いを開催し、認知症の理解や支援方法を深めていただいている。また、地域の方々に事業所交流スペースを開放し、事業所内の様子を自由に見ていただく事で、認知症に対する実践を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二カ月に一回、定期的に運営推進会議を開催し、事業所の活動内容の報告、施設の現状に於ける課題などを話し合い、委員からの意見を参考に、改善に取り組み、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は併設されている事業所と合同で定期的に開催されている。利用状況や活動報告等の現状を報告し、また防災訓練にも参加してもらっている。委員からは多くの意見や提案があり、これらは事業所の運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が密に連絡・情報を報告し、情報交換を行うことで市町村担当者との連携を図り、協力関係構築に努めている。	開設時より行政の担当職員とは利用者の状況、事業所運営、介護保険に関する相談を通して連絡を密にしており、アドバイスをもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の経営理念・方針に基づき、社内研修に於いて身体拘束への理解を深め、職員一人ひとりに意識付けをすることで、身体拘束・言葉による拘束・日中の玄関への施錠等のないケアを実践している。	事業所の「身体拘束廃止委員会」を中心として内部研修を重ねており、全職員が意識を共有し身体拘束や言葉による拘束のないケアを実践している。「身体拘束適正化委員会」は本年4月に設置し、3ヶ月毎に開催している。日中は玄関の施錠は行わず職員の見守りやセンサーで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内・社外研修やミーティングでの話し合いで、虐待に関する知識・意識を高め、虐待が見過ごされることがないように、常日頃から注意を払い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や関係者を交えての講習会を開催し、学び機会を設け、必要に応じて関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場・状況を重んじ、不安や疑問点を尋ね、理解・納得していただいたか確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常会話やご家族来訪時に、職員が積極的に声を掛け、意見や要望を述べやすい環境作りに努め、それらを共有し運営に活かしている。また、毎月家族の集いを開催し、ご家族の悩み・相談事を自由に話せる場を設けている。	利用者や家族の意見や要望は運営推進会議・家族の集い、さらに日常の面会時等あらゆる機会を通して聴取している。これらの意見や要望は「社員ミーティング」で検討されサービスの向上や事業所運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に現場に関わり、日々積極的に職員に声掛けし、意見や提案を聞き運営に反映している。年二回の個別面談を実施。ミーティング等でも職員の提案・意見・悩みを積極的に耳を傾け働く意欲や質の向上に努めている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、日々の業務内でも職員の意向を把握している。また、個別面談を実施している。これら意見や要望は全社員で話し合い、利用者へのサービスや事業所運営に反映されている。課題によっては法人本部に提案し反映される体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の実績・勤務状況・日々の努力を把握し、給与に反映している。また、面談及び人事考課を通して職員個々の目標を確認し合い、向上心を持って働けるよう配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・ミーティング・OJTでケアの確認や学ぶ機会を設けている。OFF-JTも積極的に支援し、学んできた事をミーティングで発表することで知識・技術の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県連絡協議会に加盟している。事業所間で常に情報交換・訪問をしており、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用させていただく前に、必ず本人と面談し、本人の気持ちや要望を受け止める姿勢で耳を傾け、少しでも不安を解消し関係性を構築できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用させていただく前に、本人と家族の気持ちを受け止める姿勢で、本人の状況・家庭内の現状に耳を傾け、少しでも不安要素を解消し、関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用させていただく前に、本人と家族から伺った思い・状況・状態から現状を把握し、現時点で一番必要とされる支援・サービスを見極め、ご本人の思いを尊重した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な生活空間の構築及び自立支援を念頭に置き、本人の個性・個人の力・暮らし方を重視しながら、本人、職員が喜怒哀楽を共有し、共に協力し合う家庭的な生活を営める関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が日々安心・安全に生活できるよう、常に本人を中心に据え、家族との絆が疎遠にならないよう、家族と情報を共有し合いながら、共にご本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人がいつでも気軽に来訪できる環境作りに努め、本人の体調を考慮しながら、家族・友人と外出・外食・外泊・買い物等に出掛ける等、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。	家族をはじめ知人や友人が気軽に来所できる環境づくりに努め、来所時はゆっくり過ごして頂けるよう支援している。併設する事業所の利用者との交流も多い。訪問理美容院の利用により、新たな馴染みの関係を築いている。家族と自宅に宿泊している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格・状況・状態を把握し、利用者間の関係を理解しながら職員が介入し、孤立することなく共に楽しく暮らせるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても関係を保ち、必要に応じ相談を承り、情報の提供・相談等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制度を導入しており、各担当者が中心となり、利用者との日常的会話や行動から意思の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報を得て、本人本位に沿う支援を検討している。	利用者との日常生活の中での会話や家族等から情報を得ながら、利用者の思いや意向を把握している。意思表示が困難な利用者には表情やしぐさ等を逃さないようにして、職員全員で協議のうえ利用者本位のケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人・家族から利用者個々の生活習慣・暮らし方・サービス利用までの経緯等をお聞きし、できるだけ慣れ親しんだ暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日々の暮らしぶりや、家族から入所以前の生活習慣・心身の状態をお聞きし、職員全体で情報を共有しながら利用者を総合的な見方で、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となって、本人・家族から意見・要望をお聞きし、アセスメントした内容を会議で話し合い、他の職員の意見も参考に、現状に合わせた利用者本位の介護計画を作成している。また、心身の状態に変化に合わせて、モニタリングした内容を基に介護計画の見直しを行っている。	本人及び家族とは十分に話し合い利用者の現状に即した介護計画を作成している。利用者の日々の体調なども考慮し、家族、医師、職員が情報の共有をして日常のケアに努めている。介護計画に基づいた個別記録をもと定期的にモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合には随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫は毎日個別記録に記入し、内容は職員全体が把握・共有し、心身状態の気になる点があれば、会議で話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身状態の変化に合わせ、本人・家族と話し合い、状況に合わせた臨機応変で柔軟な支援、サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が心身の力をできるだけ発揮し、心身共に豊かに暮らす事ができるよう、地域資源を把握し、地域との繋がりが持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と話し合い、希望に沿ったかかりつけ医を選定している。基本通院は家族が行うが、心身の状況によって職員が対応したり、往診に切り替え、臨機応変に支援している。また、医療連携を結び、一週間に一度訪問看護師が来訪し、常に家族・医療・事業所で情報を共有し、協力体制を構築している。	かかりつけ医の受診には家族対応を基本としており、受診の際に医療機関に利用者の情報提供をして連携を密にしている。受診後は結果を家族と情報の共有をしている。月2回協力医療機関の医師による往診があり、受診結果は家族に情報を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の日々の変化を記録し、随時看護師に報告している。週に一度、訪問看護師が来訪した際に状態の報告及び相談をし、適切な対応と指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、入院時情報提供シートを持参し来訪。病院関係者と情報交換を行ない、利用者が安心して適切な治療が受けられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所で定めた「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。看取り対応に移行した場合は、家族・医療・事業所の三者が話し合い、方針を共有し、チームで方針に基づき支援に取り組んでいる。	「利用者の重度化した場合における対応にかかる指針」を策定しており、利用者及び家族に説明し同意書を得ている。重度化した時は、月2回の協力医療機関医師の訪問診療や週1回の訪問看護が実施され、状況変化時に改めて医師・看護師及び家族等と協議し、家族の要望に応じて柔軟に対応する体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に備え、全ての職員で定期的に対応の訓練を行い、マニュアルに沿った対応が円滑に行われているかを確認し、それを周知させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一回日中・夜間時を想定した避難訓練を実施している。地震の訓練の際は備蓄してある非常食を実際に食したり、運営推進会議を通し地域に呼びかけ、訓練への参加を得ている。	消防署指導による総合訓練は年1回実施されている。事業所の防災計画を基に「防災委員会」を中心に毎月事業所独自の防災訓練を実施しており、記録も詳細に記している。運営推進会議の委員に参加してもらい意見をもらったり、会議を通して地域住民に呼びかけている。また、非常用として米・レトルト食品・缶詰類・コンロ・消毒液等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念を念頭に置き、特に利用者一人ひとりの人格を尊重した、親しみの中にも尊敬の念のある言葉遣いについて、日頃から職員同士で注意し合い十分注意している。	全職員が理念を念頭に利用者との日常生活を大事にしており、利用者の人格を尊重し尊敬の念で対応している。利用者の個人情報記入簿冊は施錠可能なキャビネットに保管している。広報紙には事前に利用者及び家族の同意を得たもののみ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から積極的に声を掛け、家庭的な雰囲気作りと意思や希望を表出しやすい接し方に努めている。上手く意思表示が出来ない利用者に対しては、共に活動する中から本人の表情・動作から意思や希望を察知するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならぬよう常に心掛け、利用者一人ひとりが望んでいる暮らし方のペースを重視し、活動の際も常に伺いをたて、意向に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう常に気を配っている。意思表示が困難な場合は本人の好みや意向にできるだけ沿えるように、家族に相談したり、協力していただいている。また、地域の理髪店に協力をしてもらい、事業所内で定期的に散髪を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	昼食の下ごしらえ、米とぎ、おやつ作りなどを職員と一緒に、食事の際には同じテーブルで会話を交え楽しく食事ができるよう支援している。	献立表は利用者の希望を聞き取り、季節感のある食材を考慮し職員が立てている。利用者は職員と共に食材の下ごしらえや準備に参加して楽しんでいる。利用者の楽しみである外食や行事食も多く企画し実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常日頃から、利用者の食事の好みや習慣・摂り方の変化・体調を観察し、一人ひとりの現状に合った量・形態・介助法・食器の工夫等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに声を掛け、個々の力に応じた口腔ケアを対応・支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えのある方は都度、トイレに誘導している。排泄の訴えが困難な方は定時誘導を設定し、対応している。一人ひとりの力・排泄パターン・習慣に合わせ、出来ることはしていただくよう、自立に向けた支援に取り組んでいる。	トイレでの自然排泄を目標に支援している。利用者個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、経過時間や利用者の仕草等から静かに声掛けをし誘導している。日々の支援により改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するため午前・午後と適度な運動を行ない、終日こまめな水分補給の促しをしている。また、訪問看護師に相談・指導を仰ぎ、便秘が及ぼす心身への影響を職員に伝え対応に活かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を行ない、入浴前にバイタルや様子・本人の意思の確認を行ってから入浴していただいている。本人の希望によって入浴剤を使用したり、季節に応じて菖蒲湯・柚子湯など行い楽しんで入浴していただけるよう支援している。	利用者の希望に沿って入浴の支援をしている。季節感のあるゆず湯や菖蒲湯なども楽しんでいる。湯は1人毎に交換している。入浴できない利用者にはシャワー浴・清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は利用者の希望により、自室やフロアで休息されている。状態に応じてクッションを用意したり、寝具の調整を行い、気持ちよく睡眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの最新の処方箋をファイリングし、全職員が目的・用法・用量・副作用について理解できるよう努めている。誤薬を防止する為、薬の準備には細心の注意を払い、服薬の際は本人の目の前で名前・日付を確認してから服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や力に合った家事仕事を手伝っていただいたり、日々の生活の観察や本人・家族から聞いた生活歴から、楽しみごと・気分転換できるものを用意し、日々喜びを持って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度の平均が上がり、あまり頻繁に外出はできていないが、地域の行事や体調を考慮しながら市内をドライブしたりしている。本人の希望や思いを家族に伝え、外出をお願いしたりと、できる限り希望に添えるよう努めている。	好天時には事業所周辺の散歩や外気浴を楽しんでいる。地域の行事(祭り・敬老会や初詣等)に参加し楽しんでいる。季節感のある花見や紅葉時のドライブ等には外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持や、使うことに興味を示される方がおられないため、物品の購入、買い物等を希望された場合は、職員が同行・管理し一緒に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用や手紙のやり取りは、ご本人の希望があれば、自由に行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の壁面には年中行事に沿った作品や写真等を飾り季節感を感じていただいている。テーブル以外にも和式の場所を設け、気分によって自由に寛いでいただけるよう工夫をしている。	建物すべてが平屋であり、多くの掃き出し窓があり、災害時の避難には有効である。共用空間は広く、食堂エリアのほか、ソファコーナーがあり利用者が自由に寛げるよう配慮されている。空調の温度も居心地良く管理され、壁には利用者の作品等が飾られ落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士や同じ目的を、思い思いに気軽に楽しんで過ごせるように、複数のテーブルを設けている。一人になりたい場合は、自室で過ごされたり、その都度、様子を見ながら工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者が慣れ親しんだ物をご家族に持ってきていただいたり、本人の希望で壁に飾って欲しい物や置いて欲しい物を設置したり、本人らしく暮らせるよう環境作りに努めている。	居室はベット・エアコン・換気扇・クローゼットが標準整備されている。利用者はテレビやテーブル・イス等を自由に持ち込み居心地の良い環境を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が分かり易いように風呂場・トイレに表示を設置し、歩行経路に危険箇所がないか常に気を配り、安心・安全を確保できるよう配慮している。		